

会 議 録

会議の名称	平成 30 年度 飯塚市環境審議会(第 1 回)
開催日時	平成 30 年 6 月 5 日(火)14:00~15:05
開催場所	飯塚市役所 本庁 2 階 203 会議室
出席委員	依田委員、梅沢委員、石橋委員、岩本委員、中原委員、伊藤委員、中山委員、吉柳委員、後藤委員、梅野委員、三賀山委員、岡松委員
欠席委員	坂田委員、宇藤委員、土居委員
事務局職員	井上課長、福澤課長補佐、森山係長、城井
会議内容	<p>1 開会 2 議題</p> <p>(1) 第 2 次飯塚市環境基本計画「平成 29 年度年次報告書」について事務局から議題(1)について説明後、質問委員ごとに対する回答</p> <p>○質問-回答</p> <p>●河川水質の改善 廃食用油の年間回収量」の「目標値」は正確でしょうか？ 正確であれば、「(*)」中の「平成 23 年度の回収量 3,130l」との関係を教えて下さい。 →平成 20 年度の家庭系(市窓口・交流センター)回収量は 1,079l、23 年度の回収量が 3,130l となり、約 2.9 倍に増加しています。このことから、計画策定時の 10 年後には平成 23 年度の回収量 3,130l の約 10 倍、31,300l という高い目標値を設定しました。</p> <p>●地球温暖化防止の取組の実践 温室効果ガスの増減に、排出源の増減は関係していますか？ →家庭における二酸化炭素排出量は太陽光発電システムを導入している家庭の増加、化石燃料の使用量を低減したハイブリッド車ユーザーの増加により、減少しています。また、業務部門は、木造：旅館・料亭・ホテル・事務所・銀行・店舗・劇場・病院、木造以外：事務所・店舗・百貨店・銀行・病院・ホテルの床面積は増加しているものの、二酸化炭素排出量は減少しているため、企業努力による減少と考察します。</p> <p>●環境教育・学習の充実 「総括」には、環境アドバイザー制度に関し、「類似委員会が教育委員会にある」と記されています。どのような委員会でしょうか？ →e マナビ(いづか市民マナビネットワーク)という教育制度で、それぞれ趣味・生活・スポーツ・レクリエーション・教養・伝承文化等の項目毎に公募を行い、5 名以上の参加があれば、項目ごとに登録した指導者が開催するものです。 また、環境省や福岡県でも環境教育に関する指導者派遣制度がありま</p>

す。

●打ち水大作戦

日時・時間帯は異議はありませんが、温暖化防止の取り組みを啓発するのであれば、風通しの良い日陰で実施する方が効果が持続できると思います。駅前ロータリーでの実施は検討すべきだと考えます。

→新庁舎建設の影響で29年度、30年度は新飯塚駅前ロータリーを会場としています。雨水の運搬、参加者の多数を占める市職員が業務終了後アクセスしやすい場所として検討いたしました。

来年度は、庁舎前の駐車場の整備が完了しているため、玄関前の日陰で実施できると考えます。

●ゴミの減量化について

飯塚市の重点プロジェクトとして全市民一斉清掃キャンペーンが展開されていますが、地区ごとの実施状況については報告書で概要は把握できますが地域住民の参加状況についてはどのくらい把握されているのか教えてほしい。

→現在、旧飯塚地区に関しましては、ボランティア袋の申請書から清掃活動を行っている地域住民の人数を把握することができます。しかし、旧飯塚地区以外に関しましては、把握することができていません。よって今後、旧飯塚地区以外も把握できるような仕組み作りを行っていかねばならないと考えています。

●全体

使用されている写真で、個人が特定される顔が写っているものがありますが、許可を得ていますか。近年の個人情報保護の観点から公表するにあたっては注意が必要かと思えます。

→イベントごとに、写真の使用について案内しており、どうしても掲載してほしくない方は申し出るようお願いしています。

●項目名(2) 目指すべき将来像と基本目標

「～飯塚市の環境に対する市民等の満足度は低く～」とありますが、市民等の満足度が低いというのは、どのような調査、データによるものですか？また、「掲げた目標もほとんどが達成できていません。」とありますが、この評価の基準は、事業計画と実施状況における自己評価(平成29年度事業実施表)の基準とは異なるものですか？ というのは、事業実施表での自己評価では多くが100%達成とされているので。

→平成23年度に第2次環境基本計画を策定するにあたり、平成22年度に実施した市民へのアンケート結果をもとにしています。20歳以上の市民2000人へアンケートを郵送し、有効回答979件の集計をとったものです。

事務事業は、担当課の作成した平成29年度の計画の達成状況を自己評価しています。

(2) 第2次飯塚市環境基本計画「平成29年度事務事業実施状況」について
事務局から議題(2)について説明後、質問委員ごとに対する回答

○質問-回答

●環境美化活動の促進

実施状況においては、「実施できませんでした」

自己評価においては、検討したが未着手。

以上の取り組みの経緯及びその理由

→昨年度は、呼びかけを実施するには至りませんでした。活動を推進するための取り組みとして環境美化活動ボランティアへ専用のごみ袋を配付しています。

現在、統一した日に清掃活動を実施していない飯塚片島、立岩、菰田のまちづくり協議会の地区では、一部の自治会で定期的に清掃活動を行っています。しかし、各地区で清掃活動の頻度や規模にばらつきがあるため、今後ボランティア袋の配布状況などから分析し、清掃活動の少ない地区はまちづくり協議会へ呼びかけ（ボランティア袋配付事業の周知）を行っていかねばならないと考えています。

まちづくり協議会地区全自治会に占める一斉清掃活動を実施している自治会の割合

飯塚片島地区 14%

立岩地区 25%

菰田地区 40%

●一般廃棄物の適正処理

実施状況においては、「実施できませんでした」

自己評価においては、検討したが未着手。

以上の取り組みの経緯及びその理由

→飯塚市では、現在、東京オリパラ実行委員会が実施している、小型家電のリサイクルを活用した入賞メダルの作製事業「メダルプロジェクト」に参加しています。

平成29年度は11月に実施された「エコ工房まつり」や2月の「エコスタいいづか」において、携帯家電やデジカメ・携帯ゲーム等のイベント回収を実施しました。

平成30年度は、この取り組みを各まちづくりとの協働事業として参加を促し、リサイクル事業の啓発に取り組もうと考えており、各地区の参加状況（6月ごろまでに集約）を踏まえて周知を予定しております。

この取組と併せて、「小型家電リサイクル」とテレビや冷蔵庫、洗濯機、エアコンに係る「家電リサイクル」との差異等を含めた啓発を行うことが効果的と考え、2月の啓発予定時期を延期とさせていただきます。

●大学や企業と連携した環境教育の実施

実施状況においては、「実施できませんでした」

自己評価においては、検討したが未着手。

以上の取り組みの経緯及びその理由

→飯塚市で開催している「エコスタ」等の環境啓発イベントにおいては地域の大学や企業からの協力を得ながら実施しており、その繋がりを活用し、環境教育についての冊子等の作成を検討しているが、予算等を伴う事業であり、話が進んでいないのが現状です。

●エコ工場の利便性の向上

実施状況においては、「実施できませんでした」

自己評価においては、検討したが未着手。

以上の取り組みの経緯及びその理由

→現在、エコ工場に直接、または付近に行くバスは無く、飯塚市コミュニティバスのバス停新設を求めるも、ルートの変更にかかる費用等の問題もあり、すぐには対応が難しいと思われる。今後も担当課と協議を検討していきます。

●生ごみ減量化運動

「達成」ではなく、「50%以上達成」と自己評価がなされた理由をお示しくください。

→各教室で状況のとおり啓発は行いましたが、調理実習の中で実行されている方とそうでない方もあること、家庭での実行状況等アンケートしていないことから「達成」ではなく、「50%以上達成」と自己評価しました。

●デポジット制度

「未着手」とならざるを得なかった問題点は何でしょうか？

→現在、国内では、ビールびんに関してデポジット制度に類似した容器保証金制が自主的にとられているほか、離島や観光地など一定のまとまりを持った区域内においてローカル・デポジットが実施されています。

制度の設計や実施段階で、誰がどのような役割を担うべきかという役割分担について検討が必要ですが、まだできていない状況です。

また、環境イベントでリユース食器のデポジット制を検討しましたが、実施に至りませんでした。

●環境美化活動

「実施できなかった」理由をお示しくください。

→P3 環境美化活動の促進の回答に同じ

●ポイ捨て禁止モデル地区

看板設置の効果はあったのでしょうか？

→市内不法投棄多発地点に毎年、不法投棄啓発看板を設置することにより年々、不法投棄総重量等が減少傾向になっています。今後は警察と連携しながら夜間パトロールも視野に入れた監視業務が必要になるかと思われます。

●生活排水対策

出前講義の評判はどうだったのでしょうか？

→トイレトペーパーとティッシュペーパーを使った実験等わかりや

すい内容になるよう工夫されていました。また、アンケートによれば、下水道の仕組みについて、少しわかったと好評でした。

●大人のマナー

どのような効果があったのでしょうか？

→エコ工房における各種教室やイベントの来場者数は、前年度の約5,500人から今年度は約7,500人と増加しています。この内、一般の参加についても前年度の約2,900人から約3,800人と確実に増えています。子どものイベントでも保護者がほぼ同伴してくるため、一緒に環境教育や学習に触れ、意識向上につながっているものと考えます。

地球温暖化防止活動推進員は、環境イベントにおいて、参加者へエコファミリーの登録や、クールチョイスを呼びかけることにより、大人の来場者への省エネ意識を啓発しています。

●ダイジェスト版作成

「継続検討」課題と自己評価の関連を教えてください。

→「検討したが未着手」に修正します。

●環境ポイント制度

どのような効果があったのでしょうか？

→1年間を通じ行われる環境イベントにおいて、スタンプラリーを実施、参加者にカードを渡し、参加者にスタンプシールを貼るというものです。2月に行う「エコスタ」を最終イベントとし、参加者のスタンプ数によりプレゼント（商品は農協等から協力いただいたもの）を渡すことにより、環境イベントへ参加する楽しみを促進させ参加者は増加しています。

今後も周知方法等を工夫し、更なるイベント参加者の増加を促進します。

●全体

自己評価の達成度について、全体の項目数に対してのそれぞれの割合を教えてください。

自己評価区分	件数	割合
1 未着手	0	0
2 検討したが未着手	9	7.0%
3 50%未満達成	3	2.3%
4 50%以上達成	31	24.2%
5 100%達成	85	66.4%
※未回答（事業終了）	0	0
計	128	100%

→

●全体

「事業計画にある内容が、実施状況で実施されているのに、100%達成とそうでないものがあるのはどのような違いがあるのでしょうか？例

	<p>例えば、P1の5項目め、計画では「～食べ残しを出さないよう指導します」に対し、実施状況でも「食べ残しを出さない指導を実施しました」とありますが、評価は100%ではありません。一方同じくP1の3項目め、計画「～15回開催します」が実施状況「～14回開催しました」で100%。書面では見えないところでの評価の基準(何が足りない、何が達成されたなど)がよくわかりません。</p> <p>→計画は、定量目標を持つものと、持たないものに分けられます。例えば、1点目は食べ残しを出さない指導をしたものの、ごみの減量が十分になされていないと判断し、50%達成という評価になります。また、2点目の15回開催予定が14回開催となったのは、1回は台風によるやむを得ない中止であったため、目標達成としては100%にしています。</p> <p>3 閉会</p>
会議資料	<p>資料1：平成29年度 第2次飯塚市環境基本計画 年次報告書</p> <p>資料2：平成29年度 事務事業実施状況表</p>
公開・非公開の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開</p> <p>(傍聴者0人)</p>
その他	